

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 5 月 23 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171100452		
法人名	特定非営利活動法人 グッドシニアライフ		
事業所名	グループホーム 我家我家		
所在地	岐阜県多治見市小泉町4丁目228 (電話) 0572-27-8333		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年5月15日	評価確定日	平成20年6月27日

【情報提供票より】 (平成 20 年 4 月 28 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 9 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 16.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,800 円	その他の経費(月額)	30,500~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (380,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 (月5,000円償却)
食材料費	朝食	150 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 4 月 28 日 現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	6 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.7 歳	最低 52 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はら内科クリニック ・沼田歯科 ・ささゆり薬局
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県道から一歩中に入り、竹林や雑木林に囲まれた場所に建ち、鳥のさえずりが度々届く落ち着いた癒し感が漂うホームである。敷地・共用空間・居室も広く、明るく、快適である。開所から5年が経つが、職員の定着率は良く、法人のバックアップや職員同志の意識の高さから資格取得を目指し、有資格者も多く誕生している。豊かな人材が提供するサービスの質の高さを反映し、利用者の笑顔につながっている。また、法人の理事である医師との連携による健康への安心感とNPO法人として持つ本質的な理念が合体し、具現化したホームとして、今後も期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題であった「利用者との関係づくり」「利用者本位の介護計画作成」は、職員全員で取り組みが行われた。また、「家族への報告」については、改善に至っていないので、前向きに検討し、取り組みの姿勢にある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 内部評価は、数ヶ月ごとに職員で行い、改善に向け取り組んでいる。今回の自己評価も職員全員で行った。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 町内会長、行政、主治医、法人理事、家族等をメンバーに開催している。ホームにおける取り組み状況を報告し、メンバーの外部視点からの意見を得、運営に反映している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族にホームへ来てもらう機会を多く設け、意見を聞く機会にしている。また、苦情箱の設置や家族会・運営推進会議でも意見を求めている。家族からの要望に応え、行事開催について早めに案内するようにし、行事への家族の参加が増えた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの敷地内が通学路となっており、子どもや地域の人の往来が多く、自然と挨拶が交わされる。また、ホームで行われる盆踊りや収穫祭には地域住民に参加を呼びかけ、交流を深めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「医療・介護・生活のバランスのとれた運営」「残存機能の行使による認知症の予防」「生きる場所としての家の提供」を独自の理念とし、ホーム運営に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を1・2階の出入口及び事務所に掲示している。また、毎朝の申し送りやミーティング時には認識が深められるよう管理者から職員に伝え共有し、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの敷地が通学路となっており、子どもや地域の方の往来が多く自然と挨拶が交わされる。また、ホームで行われる盆踊りや収穫祭には地域住民に参加を呼びかけ、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	内部評価は、数ヶ月ごとに職員で行い、改善に向け取り組んでいる。外部評価についても、全職員が共有し改善方法を検討して実践につなげている。今回の自己評価も職員全員で行った。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、行政、主治医、法人理事、家族等をメンバーに開催している。ホームにおける取り組み状況を報告し、メンバーの外部視点からの意見を得、運営に反映している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する事業所会議等を通し、行政との連携を密にすると共に、日頃から担当者との情報交換によって得られたものをサービスの質の向上に役立てている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や身体状況に変化があった時の他、毎月の請求書、預かり金の金銭報告送付時に利用者の状況等を報告している。又、家族からの要望に応え、行事開催について早めに案内するようにし、行事への家族の参加が増えた。	○	ホームの通信は発行されていない。口頭だけではなく、簡易なスタイルでよいので文書等で、定期的に利用者の状況を報告し、家族とのつながりをより強められたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にホームへ来てもらう機会を多く設け、意見を聞く機会にしている。また、苦情箱の設置や家族会・運営推進会議でも意見を求めている。	○	意見が無いことを良しとせず、アンケート等によって要望の掘り起こし、対処法を検討して、家族等の更なる安心・満足につなげられたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職場環境がよく、離職率は低い。職員が2ユニットの利用者全員の状況を把握できるよう1・2階のフロア間での異動は行われている。日常的に2ユニットの運営が一体化され馴染みの関係になっており、利用者のダメージらしきものは生じていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会の他、定期的に法人内で広い分野のテーマで研修会が行われている。外部研修の費用は法人負担で、研修内容は報告会で共有している。また、職員の自己研鑽意識も高く、専門資格取得者が多い。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一敷地に建つ別法人のショートステイや法人内の他ホームの交流は定期的に行っている。	○	職員の要望もあり、他法人同業者と交流・相互訪問が検討されている。早期に実現されることを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	共用スペースを利用したデイサービスに参加してもらったり、来所してもらい利用者と共に昼食をとることで雰囲気馴染んでもらっている。既利用者の歓待も良く、馴染みやすい雰囲気がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の気持ちを尊重し、「人生の先輩」として接することで、介護・生活を通じて支えあえる関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物・散歩等日常生活の中で利用者の希望に添うよう努めると共に、「自分だったら」「親だったら」と本人の思いをできる限り汲み取ったサービスが提供できるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時・入居後に本人や家族の意見を聞き、職員全員参加のケア会議で状態に基づき話し合って介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時は3ヶ月、安定後は6ヶ月の見直しの他、利用者の状態に変化があれば随時見直ししている。日頃の気付きをカルテ、申し送り欄に記入し、見直しに組み込んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者が看護師で、常時健康管理を行い、従来のかかりつけ医への受診希望者には、通院支援をしている。また、隣接のショートステイとの連携により、重度の利用者の入浴やレクリエーション等、柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は神経内科専門の法人理事を主治医としており、月2回の往診があり、体調管理を図っている。また、他科への受診は、家族の希望により職員が通院支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期において、その都度家族等の要望を確認しながら医師を交えて話し合いを進めている。その結果を踏まえ、対応しけるよう職員への共有を図っている。これまで2人の看取りが行われた。	○	重度化や終末期についての意志確認書が現在は作成されていない。重度化や終末期における本人の希望も尊重できるよう、できるだけ早い時期に文書化し、その都度確認するシステム作りを検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には、言葉使いの他、本人本位を念頭に置き、利用者 of 大切な想いを尊重した支援を常に指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームや利用者の体調に大きな支障が生じない範囲において、利用者の「その人の時間」を大切にしながら見守り姿勢で支援している。夕食に酒を楽しむ利用者や個人の携帯電話を所持し使用する利用者もいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1日おきの買い物や準備、後片付けまで、利用者にもできる範囲で参加してもらい、楽しみと役割がつながるよう支援している。また、利用者同士で助け合い、職員は見守った後でサポートしている。夏の夕食に付く梅酒は利用者の楽しみでもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきの午後から夕方の入浴であるが、夜間や毎日でも希望により対応している。重度の利用者は、隣接のショートステイの機械浴を利用し、安心して入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶道の好きな利用者には茶を点ててもらい皆で飲んだり、ベランダで花を育てたり等、個々の楽しみを支援している。また、ホームの畑の水やり等の役割を担ってもらい、収穫の喜びにもつなげている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い時は、自然豊かなホームの周辺を散歩することが日課である。また、1日おきの食事の買い物、月1回の喫茶、外食等、外出の機会を多く支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初から鍵をかけない取り組みを実践している。徘徊時は職員が同行し気持ちを和らげている。また、周辺住民にも協力を依頼しており、職員が迎えに行くまで近隣宅でゆったりと待っていたこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、利用者も参加し、防災訓練を定期的実施している。運営推進会議を通じて地域住民にも協力を依頼している。	○	さらには、地域住民にも訓練に参加してもらったり、夜間の避難訓練の実施等も検討されたい。また、地域消防との連携強化も図られたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほぐし、きざみ、とろみ等摂食状態に合わせた食事形態で対応している。朝食がパンメニューの時は、パン粥にする等工夫している。水分摂取はおやつ時、入浴後、散歩後等こまめに取れるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間からは竹林が望められ、そこに来る鳥の鳴き声で季節や時間を感じることができる。また、風通しのよい広い空間の居間では、畳コーナーやソファー等、思い思いにくつろぐことができるよう配慮してある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い押入れが付いた居室は、思い出の品や使い慣れた常時使用される物以外は収納され、車椅子でも移動出来る空間があり、安全で快適な場所となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。